

岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合 総合教育会議（第1回）議事録

1 開会年月日	令和7年10月27日（月） 午後3時27分
2 場所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	管理者 栗尾 典子（笠岡市長），副管理者 山岡 敦（矢掛町長） 教育委員会 教育長 大重 義法 教育委員 山部 英之，山野 豊久，大山 美智子， 芦田 鉄兵
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	事務局長 塚本 真一，事務局次長 川口 葉子 教育総務課 課長補佐 藤代 幸弘 【矢掛町教育委員会】教育課 課長 西山 弘之，課長代理 小川 泰徳
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 栗尾管理者 大重教育長</p> <p>3 議事 （1）岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合教育大綱について 川口次長 それでは、教育大綱についてご説明させていただきます。資料の「教育大綱の法的位置付け」をご覧ください。教育大綱の法律上の位置付けですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づいて、教育・学術・文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする、となっており、策定主体は地方公共団体の長で、総合教育会議で協議することと定められています。</p> <p>3枚目の「岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合教育大綱（案）」をご覧ください。現在の小北中学校の教育大綱を基に、新しく案をお示しさせていただいています。まず、1番目の「大綱の期間」については、今年度末で現行のものが期限を迎えますので、従来どおり令和8年度から4年間と考えています。</p> <p>次に「基本理念」についてですが、現行の基本理念を引き続き継続する案としています。現行の基本理念は、「自立 共生 ふる里を大切に作る心」。より良い社会づくりに貢献するため、多様性を認め合いながら自らの将来を切り拓くことのできる生徒の育成を目指す、となっています。現行のままとした理由ですが、笠岡市と矢掛町の両市町の基本理念と方向性を共有しており、今後の教育においても十分に有効であると判断したためです。まず矢掛町の教育大綱、こちらは令和5年3月に策定されたものですが、「ふるさと矢掛を愛し、矢掛で活躍するたくましい子どもの育成」。家庭・学校・地域のつながりを大切にしようという事で、地域への愛着を育み、地域社会に貢献できる人材の育成を目指されています。こちらは前倒して教育大綱を見直す予定であるということをお聞きしていますが、基本的な部分については大きく変わらないと伺っています。笠岡市の教育大綱ですが、来年度から新たな教育大綱になるということで、先日総合教育会議において協議をしました。新しい教育大綱ですが、「共に未来を拓く、「たい」</p>

のあふれる教育」としています。中学校組合の基本理念について、まず「自立」ですが、笠岡市の理念「共に未来を拓く、「たい」のあふれる教育」に通じていると考えています。自ら考え判断し行動できる力は、生徒達の将来に必要な不可欠であると考えます。次に「共生」は、多様な価値観を尊重し、他者と協力して課題に向き合う力を意味します。これは笠岡市の理念に加え、地域社会のつながりを重視する矢掛町の考え方とも調和していると考えています。そして「ふる里を大切に作る心」は、矢掛町の教育理念「ふるさと矢掛を愛し、ふるさと矢掛で活躍するたくましい子どもの育成」と強く結びついています。地域への誇りと愛着を育み、将来的に地域に貢献できる人材を育てることは、笠岡市・矢掛町両市町共通の願いであると考えています。このようなことから、理念を変更することなく現行のものを継続したいと考えています。

次に3点目の「基本方針」ですが、こちらも現行のものを継続したいと考えています。『学び』『育ち』のつながりを大切に、自立して共に生きるたくましい子どもを育てる学校教育の推進です。まず『学び』『育ち』のつながり』という部分ですが、これは笠岡市全体で取り組んでいる小中一貫教育を指しています。本組合においては一貫教育を念頭に置きつつも、笠岡市・矢掛町をまたいでいますので、連携教育として取り組んでいます。また、後半の「たくましい」という表現は、矢掛町の教育大綱の中に出てくる表現ともなっています。その下の四角い囲いの中の説明についてですが、こちらについても基本理念・基本方針を現行のものを継続する中で、現行のままとしています。子ども達が夢を持って学校生活・勉強に取り組むことができ、安心して学んで成長できる環境を提供し、学習環境の整備を進めることでより良い教育を提供し、未来を担う子ども達の成長を支えていく、という内容が記載されています。

塚本事務局長 それでは、ただ今の説明について教育委員の皆様からご意見をいただければと思いますが、どうでしょうか。

委員 理念ですので、今までしてきたことの積み重ねで、細々というより大まかなことの方向性を出されたものですから、これはこれで私は良いと思いますし、基本方針も同じく大きな観点の動きで十分です。それを基にして現在に至る状況等、また色々細かいところといえば、ICTがどうのこうのというのが発展してきたものですが、結局は元は良い環境とかそれに基づいていくものですから、基本的な考え方や方針はそんなに難しいものでもなし、押し付けてはいけないと思います。

委員 私も基本理念のところは非常に、社会づくりに貢献とか多様性を認め合うとか自らの将来を切り拓くという、大変素晴らしいというか良い言葉だなということを感じました。基本方針の中にも「たくましい」という言葉があって、自分の将来を切り拓くということはたくましくないと今は本当に厳しい社会ですから、その中でたくましく生きていくことが非常に大事なので、この辺のところの言葉は非常に大事だなと思って読ませていただきました。私もこれで良いのではないかと感じています。

委員 先ほどからちょこちょこ言葉の中で出てくる「自己肯定感」というものを、鍛えていくというか持っていくようなことがしていければとは思っています。私は小北中学校に息子がいるのですが、息子の方から小北中学校はどこが良いかというところを聞いた時に、自分達で色々なことを決める、自分達で決めて皆でやるみたいなのがずっと出てくるようなのが、親としてもびっくりしたところですので、今までの積み重ねでそういうことが子どもの方から出てくるような教育だったりをしてきているのだと思うので、そういうのが自己肯定感というところに繋がっていくのかと思いますので、この教育大綱を元に教育していくような形にしていければ良いかなと思います。

栗尾管理者 皆様は仰るとおり、現状そういう言葉が子ども達から素直に出てくるということであれば、このまま引き継いだ形で良いのではないかと思います。

山岡副管理者 私もこれで良いかと思います。矢掛町の方針と笠岡市の方針を取り入れて、調和が取れたものになっていて良い文言だなと思いました。

塚本事務局長 それでは、岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合教育大綱については、この案ということによろしいでしょうか。

教育委員 (異議なし)

(2) その他

山部委員 先ほどの大綱とも関わりますが、ちょうど「ふる里を大切に作る心」というものが位置付けられていて、具体的な報告になりますけれども、小田地区の絡みで紹介させていただこうと思います。9月28日(日)に、小田地区の敬老会があったのです。あの時も吹奏楽部の子ども達に来てくれて、普段の練習の成果を発表してくれたり、小田小学校の子ども達と中学生と一緒にあって、ソーランという風なものを紹介してくれたりしていたのです。本当に嬉しく思いました。それから、まさにこの基本理念のとおり、夏祭りの時もボランティアで公民館活動とかに積極的に関わってくれようとする小田隊というものを作っています。その取組がずっと継続しているということで、この度、備中県民局の青少年健全育成のついでで表彰を受けることになっています。それで11月6日に、私が表彰の報告を受ける予定になっています。そういう意味で、子ども達の郷土を愛する気持ちというものは育まれていると。そういう点でとても嬉しく思っています。大変ありがとうございます。

委員 10月18日と19日は小田の武荅神社、小田に1つある神社のお祭りがあったのです。その大祭の1日か2日前に小北中学校の生徒の方が境内を掃除してくださって、本当に助かりました。たくさん来られていて、私たちもなかなか手の届かないところ、落ち葉や参道の掃除をしていただいて、本当にありがたく、総代としてお礼を申し上げます。

塚本事務局長 せっかくの機会ですので、皆様からどうでしょうか。

栗尾管理者 北川の夏祭りはすごく賑やかでしたね。浴衣とか甚平を着て来られている小さなお子さんがいっぱいいて、お父さんお母さんが「よし、行こう」と思わないと着せないと思うので、そういった思いで来られているのだなというのがすごくよく分かって、盛り上がっているなと思いました。

委員 先ほどの自己肯定感というので、私自身も昔教師をしていましたから、調査なんかの様子を見てみると、日本人独特かこの辺の地区の傾向かもしませんが、調査表を見るとどうしても控えめに自分を評価するというか、そういう部分もあるなというのを、「すごく頑張っている」「自分はそのままでじゃないんじゃないかな」という感じで評価していく部分もあるかなというのが、日本人独特の控えめというか、もっと自分を強く出していけるような、自分を自分で褒める、なかなかやるじゃないかという方向に持っていきたいな、というのを感じたことがあるので、そういう思いを持たせるという。先ほど芦田さんも言われていましたが、自分の子どもが「こんなところが良いんだ」、「こんな風に僕らはやっているんだ」という思いが、表出するというか、出てきてくれたら更に良いかなというのを感じます。控えめに評価するというか、我々だってそうだと思うのですが、「私はできます」などとなかなか言わないというか、そういう部分が子ども達にも影響しているかなと。先ほど結婚観のことを言われていましたが、確かに自己肯定感がある子は、結婚して子どもができて、それを育てていきたいというのはもちろんなのですが、それはこの社会の厳しさという感じのものが大きい部分もあって、今は女性は割と自立というか、それを目指して、育休が男性が何%とか出てきていますけれども、実際子育てというのは女性にかなりかかってくるので、それを思ったら、会社の中で出世コースに乗ろうと思っても乗り切れないという。結婚をやめればいけるかなということもあるのかと。先ほどのふるさと、ふるさとは私も道徳とかそういうものをすごく大事にして、子ども達とやってきた部分があったのですが、実際に子ども達がいざふるさとでずっと過ごそうかと言ったら、仕事がない。それなりの仕事が欲しいけれども、それなりの仕事は町に出ないという、そのあたりで私も言われたことがあるので、「勉強を頑張ろう」と言って皆が頑張ってくれていたなら、ある年配の方ですが、「先生、あまり勉強勉強と言うと、子ども達がよくできるようになるのは嬉しいけれども、反面帰ってこないんだ」という風に言われたことがあって、ああそうだなという風な。だから本当は帰ってきて欲しいというか、ここで頑張りたいという思いはすごくあるのですが、その辺は市長さんとかで考えていただけたらありがたいなと。しっかりした子ども達がたくさん育って、それがまちを豊かにしてくれたらと望んでいます。私達も高齢化で悩んでいますので。

大重教育長 冒頭に私の方で挨拶をさせていただいた時に、鳥取市の青谷中学校に組合議会で視察に行かせていただいたという話をしましたが、そちらの青谷中学校がまさに、ふるさとというものに子ども達が関わって、探究的に学んでいくことをやっていて、将来青谷に帰ってくれたり、あるいは関係を持つ形になってくれたらということで、自己肯定感を高める取組にも繋がっているのですが、その時に矢掛町の議員さんから、帰ってくると言っても仕事がないと帰ってこないよねという話があり、そういう厳しさというものもあるなと思いました。今、笠岡市の方はこれまで、学力・学習状況調査の質問項目にある将来の夢や目標を持っているという割合が高くない状況があったのですけれども、昨年度1年間、地域を学びのフィールドにして、子ども達がどんどん地域に出ていって、地域の方々と一緒になって、地域の特色作りとか課題解決とかいう取組を行ったのですが、小学校の方はそういった取組の反応がすごく良くて、今回の学力・学習状況調査の結果が昨年度に比べると、当てはまると答えている割合が、その前の年に比べて13ポイントも一気に上がりました。中学校の方はそこまでいきなりということにはならないのですが、小学生の場合はそういう取組をやっただけでも反応として返ってくる。小北中学校も取組をしているので、自分達がやっていることに自信を持っていくと、数値的な部分についても更に上がっていくと思います。自己肯定感というのは色々な意味でこれからキーワードになるのかと思って話をさせていただきました。

栗尾管理者 地場産業の振興というのは大きいと思っています。私は刺繍をするのですよね。チューリップの針をご存知ですか。チューリップがついているまち針がありますが、あのチューリップの会社は広島にあるのです。昔、広島で針がいっぱい製造されていたところに1箇所あって、今は全国シェアではクローバーという手芸メーカーがすごく売っていますが、そこも輸入の針で、日本で生産されているのは今はチューリップしかないのですよね。すごく活気があって、中に入ると若い人達がすごく話をしている、何ですかという話をしたら、この小さな会社なのだけれども、竹の編み針、それからいわゆる針、これの輸出がすごく盛んで、各国で色々な手芸があって、それに見合ったものを作ろうとしていて、それには外国語はもちろん喋れないといけない、経済も分かっていなければいけない、色々な手続きが分かっていなければいけないというところで、そういう若いひと達がどんどん海外で頑張ってくれているのですよと言って、すごく賑やかな会社でびっくりしたことを覚えているので、独自の技術であるとか地域の産品、お米にしてもお酒にしても海外への道筋がどんどんついているので、地場産業の振興というものは海外に目を向けて一生懸命やれば、若い人達もどんどん入ってくるような会社ができるのではないかなと思って、そういう意味でも地場産業の振興ということに力を入れていくべきだろうと思っています。

山岡副管理者 たまたまですが、私達のところに来てくださった会社が大体2棟目、3棟目を建ててどんどん大きくなっていくので、1棟工場を建てるということは企業さんが1個来てくれたのと同じぐらい、しかも元々そこにあるので、次の工場を建てても皆むしろありがとうぐらいな感じで、また雇用も生まれる、それでいい循環になって助かっている面もあるのですが、私は「ふる里を大切に」というところで、私自身も郷土愛とか、その中でも人との繋がりというので思うところは、いくら帰ってきてねと言っても、本人が東京や大阪の方へ出て働きたいんだと言ったら、それはやめておけという風には言えない訳で、いつか帰ってきてくれたら良いと思う中に、郷土愛とか友達がいたりとかいう部分は大切な中で、ここ数年とても増えてきているのが、自分1人で帰ってくるというのが結構出てきているのですよ。家族がいるのですよ。でも60を過ぎてしまったから、夫婦で毎日毎日一緒になくてもいいと、年に何回か会えば良いのだというので、自分の実家に帰って、そこで地域の、自分の家も守ってというような人がすごく増えてきて、来年は私の同級生でも2人ぐらいそういう人がいるのですよ。という新しい傾向も出てきているので、これは1つ楽しみかなと思います。東京や大阪の方でなくても、福山とか岡山へ出られた人が帰ってくる。それで町内会なんかにも入られているのですよね。これは地域社会をこれから作っていく上で非常に大切なことだなと。それを教育の一番元となる人生の初期段階で植え付けていく。言葉はあれですが、これは大事なことだなと思います。

栗尾管理者 前に女性の活躍について仰ってくださいましたが、男性陣がたくさんいる中で申し上げにく

いのですけれども、子育てをしている人達が早く帰るから、そういう仕組みができていいるから大丈夫でしょうか、制度的なことを男性の方はすごく言われるのだけれども、制度で賄えないところというのは女性が大きく背負っていて、町内でランチ会を、若い人達がここですのですが、早く帰れるのです。子どもが病気だとか、短時間の勤務で早く帰れるのです。でも、私ができなかった仕事を後輩に頼みます、それで、私に来てみたらその後輩が、自分の仕事が山盛りでここはできていなかった。私は何故できなかつたのですかと言わなければいけない立場なので、「これはやらなければいけなかつたですよね。何故できなかつたのですか」と言いながら涙が出てくると。だって私が休んだから彼女に回っただけだから、この理不尽さというのはおそらく男性はあまり感じないだろうと。言葉にしてしまえば、仕事を振り分けただけだから。でも、私の子育てをすることが皆に迷惑をかけているという、その心の負担というのはすごく大きい、ということを言われたりするケースが若い子育て世帯には多いので、まだまだ女性に背負わされる、育児だけでなくて介護、そういったものもきちんと、制度だけではない、制度で解決しない部分も汲み取れるような仕組みを精査していかなければいけない、という風に強く思いますね。

大重教育長 最後に、今後の小北中学校のことで。先々の小北中学校の生徒数の予測というグラフの資料を元に、この後、矢掛町の方は小田地区に、笠岡市の方は北川地区に行って、意見交換をする予定になっています。北川地区の方は11月4日に入ることになっています。矢掛の方が11月18日です。意見交換ということで、今後のあり方についてしっかり意見を聞いて帰って、その後の方向性について検討していつということになってくると思っていますので、よろしくをお願いします。

山岡副管理者 今日では令和7年度第1回の組合の教育会議ということで、本当に色々な意見をお聞かせいただきありがとうございます。この後、色々なスケジュールもまた出てくるのだらうと思いますが、引き続き皆様よろしくをお願いします。本当に今日はありがとうございました。

塚本事務局長 それでは、本日の議事は全て終了しました。以上をもちまして、令和7年度第1回岡山県笠岡市・矢掛町中学校組合総合協議会議を閉会します。大変ありがとうございました。

4 閉会年月日

令和7年10月27日(月) 午後4時1分